

サツマイモ基腐病とは

サツマイモ基腐病は、糸状菌（かび）によるさつまいもの病気。我が国では、平成 30 年度に沖縄県、鹿児島県及び宮崎県において初めて確認された。

病原菌：*Diaporthe destruens*

宿主植物：さつまいも等のヒルガオ科植物

症状：株の基部が黒変し、地上部が萎凋、枯死する。塊根はなり首から腐敗する。

伝染方法：感染した苗や種いもを植えることによって被害が広まる。発病株に形成された胞子が風雨や湛水により移動し、周辺株に発病が拡大する。また、土壌中では主に感染した植物残さで越冬し、翌年の伝染源となる。

防除対策：病原菌を本ぼに「持ち込まない」、栽培期間中に病原菌を「増やさない」、収穫後に病原菌をほ場に「残さない」の 3 つの対策を総合的に実施する。

①持ち込まない対策

健全種苗の確保、苗床消毒、種いもの選別・消毒（蒸熱処理を含む）など

②増やさない対策

抵抗性品種の利用、ほ場の排水対策、発病株の抜き取りと予防的な薬剤散布など

③残さない対策

罹病残渣処理、土壌消毒

（参考：サツマイモ基腐病に登録のある薬剤：15 剤（令和 8 年 4 月 1 日現在））



左：圃場での発生状況、右：発病いも（コガネセンガン）

写真：生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業（01020C）および戦略的スマート農業技術等の開発・改良（SA2-102N）令和 4 年度版マニュアル「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」より